2026 年度　水資源・環境学会　研究大会

大会趣旨

大会テーマ：

大阪湾の開発と環境

研究大会実行委員長
三輪　信哉
（大阪学院大学　国際学部）

大阪湾は、琵琶湖を源とする淀川水系をはじめ、大和川など数多の河川を受け入れる海域である。琵琶湖が閉鎖性水域として特有の環境特性を有するのと同様に、大阪湾もまた淡路島等に囲まれた閉鎖性海域として位置づけられ、その水域は関西圏1千万人を超える人々の陸域における社会・経済活動に由来する多様な環境負荷を受容してきた。

しかしながら、陸域に生活基盤を置く私たちにとって、大阪湾は日常的な生活空間の外部にある存在として認識されがちである。その結果、湾内に流入する諸負荷や環境変化は、必ずしも身近な課題として共有されてこなかった。こうした背景のもとで、大阪湾沿岸では大規模な開発や埋立が進行し、人々が海と直接関わる機会は著しく制限され、海域は社会から隔てられた空間へと変容してきた。

一方で、歴史的に見れば、大阪湾は豊かな生態系に支えられた「豊穣の海」として、人々の暮らしを支えると同時に、精神文化や信仰など、多様な有形・無形の価値を生み出してきた場でもあった。すなわち大阪湾は、自然環境と人間社会とが重層的に関わり合うことで形成されてきた、きわめて重要な地域空間である。

本大会は、こうした大阪湾を対象として、その環境的側面から歴史的変遷を再検討するとともに、現在直面する課題を共有し、将来に向けた持続可能なあり方を展望することを目的とする。学際的な議論を通じて、大阪湾と人間社会との関係をあらためて問い直す機会としたい。